

中央区グリーンインフラガイドライン技術編の紹介

この冊子で取り上げたグリーンインフラ技術は、別冊の技術編にて具体的な手法や事例などを紹介しています。中央区ホームページからご覧ください。

<https://www.city.chuo.lg.jp/kankyo/midori/gi-guidelines.html>



No.創出-2-3	菜園利用		
技術の目的			
オープンスペースを菜園として利用することで、緑を楽しみながら交流の場の創出や良好な景観の形成を図る。			
導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域
技術の内容・事例			
■導入事例			
1. 地域住民がつながる、食べられる景観づくり「エディブルウェイ」の事例 ・「エディブルウェイ」は、千葉大学の研究室が地域住民との協力により、個人宅の地先におそろいの布製プランターを設置し、野菜作りを行っているプロジェクト。「食べられる景観」でゆるやかに人がつながり、安心して豊かに暮らせるまちづくりを目指している。■#1			
2. 都市部でのコミュニティ農園や屋上農園の利活用事例 ・民間のオフィスビルなどで屋上スペースを活用し、地域住民や勤務者を対象とした小規模な農園を設置している事例があり、コミュニティづくりや健康増進に効果があると考えられる。			
 オフィスビルのワーカーを対象にテナント間のコミュニケーション醸成を目的に屋上菜園を活用している事例（東京ポトシティ竹芝など）■#3		 布製プランターを使った個人宅地先での菜園利用「エディブルウェイ」の事例（松戸市）■#2	
3. 銀座ミツバチプロジェクトによる養蜂・屋上菜園の事例■#4 ・銀座の屋上で養蜂を行う銀座ミツバチプロジェクトは、電源確保のために屋上緑化・菜園に取り組み、収穫した蜂蜜や作物を使って地域企業とコラボ商品を販売。その売上で屋上緑化を進めている。菜園を活用した子供たちへの環境教育、植える苗を通じた地域間交流などにも取り組み、これらの活動により、さまざまな人を巻き込みながら街の緑化を広げている。			
 商業施設屋上の菜園（マロニエグ 1/中丸庭）		 収穫したサツマイモを使用した商品化した純酎（銀座ミツバチプロジェクト）	

中央区グリーンインフラガイドライン

令和4(2022)年3月
刊行物登録番号3-108

発行：中央区環境土木部水とみどりの課
東京都中央区築地一丁目1番1号
電話 03(3546)5434
編集：株式会社エイト日本技術開発
東京都中野区本町五丁目33番11号